

ご案内

平素は格別のご高配を賜り御礼申し上げます。
この度、当ギャラリー企画の本山周平写真展についてのご案内を申し上げます。



MOTOYAMA Shuhei
Photo Exhibition
Luxembourg —ルクセンブルグ—

会期：2017年5月8日(月) — 5月20日(土)
12:00-19:00 (最終日 17:00) 日曜休廊
会場：gallery 福果
協力：EUジャパンフェスト日本委員会
5月13日(土) 17:00よりささやかなパーティーを開催します。

2004年、「Europe Today」プロジェクトの一環として、13人の日本人写真家がそれぞれEU二カ国の撮影を担当し、翌2005年に全14巻(13巻+別巻1)の写真集として刊行されました。(企画・編集：菊田樹子、楠本亜紀／造本：中島英樹)
この中で本山は第5巻となるルクセンブルグとオランダを担当し取材しました。
本展は同写真集よりルクセンブルグで撮影された作品のみで構成されますが、これは2005年以来12年ぶりに当時のオリジナルプリント約20点を使用しての展示となります。

2004年の10月の終わりから11月の中旬までの約20日間同国に滞在し、この小さな美しい国を歩いた。ドイツやフランス、ベルギーに囲まれたこの国は歴史的に様々な負の遍歴を持ち、それを象徴するかのよう
に無数の要塞や城跡がある。言語においても、国の南側はフランス語、北側はドイツ語が話される。首都の
ルクセンブルグにおいては、旧市街は町自体が要塞になっている。現在はEUの金融における中心国となっ
ており、小さい国ながら国自体豊かな印象があった。僕にとっては、ほぼ初めての海外滞在であり、会話
も俚ならず、日々の生活はまるで余裕はなかったが、陽がのぼり、陽が沈むまで町々を歩き続け、夜中眠り
につくまで、ただただじっくり写真と向き合える幸せな時間であった。そして、ルクセンブルグの滞在は
霧の中に佇むかすかな時間の痕跡をひとつひとつ見つけ出すような時間でもあった。 本山周平

本山は初めて訪れるルクセンブルグという私達にとって必ずしもなじみのある国とは言い難く、歴史的にも複雑な土地に対し
何の先入観も持たず、新鮮な眼差しで真摯に撮影しています。この静謐で魅力的な光と闇の世界をぜひ堪能していただきたく
ご案内申し上げます。

gallery 福果
東京都千代田区神田神保町 1-11-2F
101-0051 Tel.Fax.03-3259-6555
<http://www.gallery-fukka.com/>
地下鉄三田線・新宿線・半蔵門線 神保町駅 A7 出口を出て左の小道「さぼりる」隣 2F

本山周平写真集『In-between5: ルクセンブルグ、オランダ』(残部僅少) 会場にて発売
発行=EUジャパンフェスト日本委員会/発売=オシリス/2005年7月刊/税込定価:2,100円(本体価格:2,000円)
B5判変型/上製本/白黒/72ページ/作品点数42点/ISBN4-903152-04-9 C0072